

受 検 番 号	氏 名

令和 6 年度 (後期)

2 級建築施工管理技術検定

第一次検定問題

令和 6 年 11 月 24 日 (日)

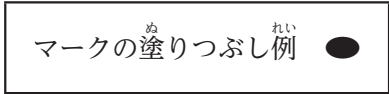
[注 意 事 項]

1. ページ数は、表紙を入れて 28 ページです。
2. 試験時間は、10 時 15 分から 12 時 45 分です。
3. 問題の解答の仕方は、次によってください。
 - イ. [No. 1] から [No. 4] までの 4 問題は、全問題を解答してください。
 - ロ. [No. 5] から [No. 14] までの 10 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
 - ハ. [No. 15] から [No. 17] までの 3 問題は、全問題を解答してください。
 - ニ. [No. 18] から [No. 27] までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
 - ホ. [No. 28] から [No. 37] までの 10 問題は、全問題を解答してください。
 - ヘ. [No. 38] から [No. 42] までの 5 問題は、全問題を解答してください。
 - ト. [No. 43] から [No. 50] までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
4. 選択問題は、解答数が指定数を越えた場合、減点となりますから注意してください。
5. 問題番号 [No. 1] から [No. 37]、[No. 43] から [No. 50] は、四肢択一式です。

正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
6. 問題番号 [No. 38] から [No. 42] は、施工管理法の能力問題で五肢択一式です。

正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
7. 解答の記入に当たっては、次によってください。
 - イ. 解答は、選んだ番号を右のマークの塗りつぶし例に従って、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで塗りつぶしてください。ボールペン、サインペン、色鉛筆等では採点されません。
 - ロ. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
11. この問題用紙は、第一次検定の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。

途中退席する場合は、持ち帰りできません。



※ 問題番号 [No. 1] から [No. 4] までの 4 問題は、全問題を解答してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

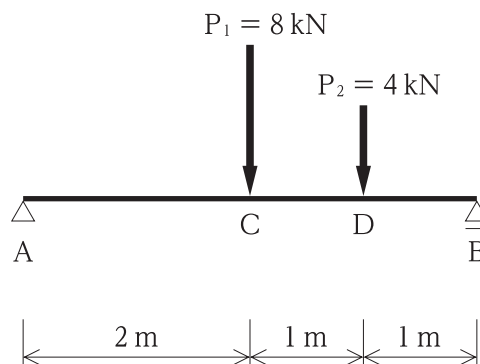
[No. 1] 色に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- マンセル表色系は、色彩を色相、明度、彩度の 3 要素によって表示する。
- 純色とは、各色相の中で最も明度の高い色をいう。
- 一般に同じ色でもその面積が大きいほど、明度や彩度が高く見える。
- 彩度の高い赤色は、誘目性が高く、禁止や高度の危険を示す場合に用いられる。

[No. 2] 鉄筋コンクリート構造に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

- 梁のせん断補強筋をあばら筋という。
- 梁は、全スパンにわたり主筋を上下に配置した複筋梁とする。
- 柱の出隅部の主筋には、末端部にフックを付ける。
- 柱の帯筋は、柱の上下端部より中央部の間隔を密にする。

[No. 3] 図に示す単純梁 AB の点 C に集中荷重 P_1 及び点 D に集中荷重 P_2 が作用したとき、支点 B に生じる鉛直反力の値の大きさとして、正しいものはどれか。



- 4 kN
- 5 kN
- 7 kN
- 8 kN

※ 問題番号 [No. 1] から [No. 4] までの 4 問題は、全問題を解答してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 4] 木材に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 強度は、含水率が同じ場合、密度の高いものほど高い。
2. 辺材は、心材に比べて腐りにくく、虫害に対して強い。
3. 針葉樹は、広葉樹に比べて軽量で加工がしやすい。
4. 割れには、心割れ、肌割れ、目回り等があり、強度や耐久性に影響がある。

※ 問題番号 [No. 5] から [No. 14] までの 10 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
ただし、5 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 5] 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 全般換気は、室内全体の空気を外気によって希釈しながら入れ替える換気方式である。
2. 必要換気量は、室内の汚染物質の発生量が一定であれば、室の大小によって変化しない。
3. ショートサーキットは、給気口と排気口の距離が近い場合に発生しやすい。
4. 第 3 種機械換気方式は、給気側にのみ送風機を設け、外気に比べて常に室内を正圧に保つことができる。

[No. 6] 冬季暖房時の結露に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 外壁の室内側の表面結露を防止するためには、室内側の表面温度を露点温度以下に保つようにする。
2. 外壁の室内側の表面結露を防止するためには、室内側表面に近い空気の滞留を防ぐようにする。
3. 室内側が入隅となる外壁の隅角部は、室内側に表面結露が生じやすい。
4. 室内側から入った水蒸気により外壁等の内部で生じる結露を内部結露という。

[No. 7] 鉄骨構造に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. H 形鋼の大梁に架けられる小梁には、大梁の横座屈を拘束する働きがある。
2. 大空間を必要とする建築物に用いる長大な梁は、トラス梁とすることで軽量化を図ることができる。
3. 柱は、細長比が小さいものほど座屈しやすい。
4. 鉄骨構造の柱は、鉄筋コンクリート構造の柱に比べ、小さな断面で大きな荷重に耐えることができる。

※ 問題番号 [No. 5] から [No. 14] までの 10 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
ただし、5 問題を超えて解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 8] 鉄骨構造の接合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 普通ボルトを接合に用いる建築物は、延べ面積、軒の高さ、張り間について、規模の制限がある。
2. 高力ボルト接合の形式には、摩擦接合、引張接合、支圧接合等があり、このうち摩擦接合が多く用いられる。
3. 隅肉溶接は、母材の端部を切り欠いて開先をとり、そこに溶着金属を盛り込んで溶接継目を形づくるものである。
4. 完全溶込み溶接の有効のど厚は、接合される母材の板厚が異なる場合、薄い方の板厚とする。

[No. 9] 基礎杭に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 場所打ちコンクリート杭工法には、アースオーガーを使用するプレボーリング拡大根固め工法がある。
2. 節部付きの遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（節杭）は、一般に杭本体部に外径が軸径よりも大きい節部を一定間隔で設けたもので、摩擦杭として用いられる。
3. 外殻鋼管付きのコンクリート杭（SC 杭）は、大きな水平力が作用する杭に適している。
4. 既製杭工法には、鋼管の先端を加工した鋼管杭本体を回転させて地盤に埋設させる回転貫入工法がある。

※ 問題番号 [No. 5] から [No. 14] までの 10 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
ただし、5 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

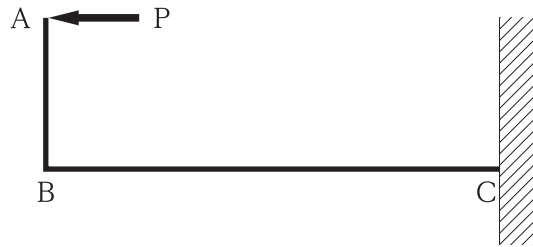
[No. 10] 建築物の構造設計における荷重及び外力に関する記述として、最も不適当なものは
どれか。

1. 風圧力と地震力は、同時に作用しないものとして応力を計算する。
2. 風圧力は、その地方における過去の台風の記録に基づいて定められた風速に風力係数の
みを乗じて計算する。
3. 屋根面における積雪量が不均等となるおそれのある場合、その影響を考慮して積雪荷
重を計算する。
4. 多雪区域では、積雪荷重を短期荷重だけでなく長期荷重としても考慮して応力を計
算する。

※ 問題番号 [No. 5] から [No. 14] までの 10 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
 ただし、5 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
 問題は四択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 11] 図に示す片持ち梁の点 A に集中荷重 P が作用したときの曲げモーメント図として、
 正しいものはどれか。

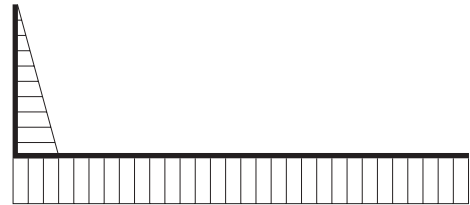
ただし、曲げモーメントは、材の引張側に描くものとする。



1.



2.



3.



4.



※ 問題番号 [No. 5] から [No. 14] までの 10 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
ただし、5 問題を越えて解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を1つ選んでください。

[No. 12] 構造用鋼材に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 密度は、約 2.3 g/cm^3 である。
2. 強い力を加えることにより、常温でも長く伸ばしたり、薄く展延することができる。
3. ヤング係数は、約 $2.05 \times 10^5 \text{ N/mm}^2$ である。
4. 熱処理により、強度等の機械的性質を変化させることができる。

[No. 13] 日本産業規格 (JIS) に規定するセラミックタイルに関する記述として、不適当なものはどれか。

1. ユニットタイルは、多数個のタイルを並べて連結したもので、タイル先付けプレキャストコンクリート工法に用いるものは含まない。
2. 裏連結ユニットタイルの裏連結材には、施工時に剥がすタイプと剥がさないタイプがある。
3. 定形タイルは、正方形及び長方形のタイルで、装飾のため側面を非直線状にしたタイルは含まない。
4. タイルの吸水率による種類は、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類に区分される。

[No. 14] シーリング材の特徴に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ポリサルファイド系シーリング材は、表面に塗った仕上材を変色させることがある。
2. アクリルウレタン系シーリング材は、ガラス回り目地に適していない。
3. シリコン系シーリング材は、耐候性、耐久性に劣る。
4. ポリウレタン系シーリング材は、紫外線によって変色することがある。

※ 問題番号 [No. 15] から [No. 17] までの 3 問題は、全問題を解答してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 15] アスファルト舗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 路盤は、舗装路面に作用する荷重を分散させて路床に伝えるものである。
2. 表層は、交通荷重による摩耗とせん断力に抵抗し、平坦で滑りにくく快適な走行性を確保するものである。
3. プライムコートは、路床の仕上がり面を保護し、路床と路盤との接着性を向上させるものである。
4. フィラーは、アスファルトと一体となって骨材の間隙を充填するものである。

[No. 16] 建築物の電気設備とそれに関する用語の組合せとして、最も関係の少ないものはどれか。

1. 電力設備 —— 情報用アウトレット
2. 防犯設備 —— IC カードリーダー
3. 幹線設備 —— ケーブルラック
4. 照明設備 —— ペンダント型

[No. 17] 給排水設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 圧力水槽方式は、給水圧力の変動が大きく、停電時には給水が期待できない。
2. 水道直結直圧方式は、水道本管から分岐した水道引込み管に増圧給水装置を直結し、建物各所に給水するものである。
3. 排水トラップの破封を防止するため、排水系統に通気管を設ける。
4. 中水道とは、水の有効利用を図るため、排水を回収して処理、再生し、雑用水等に再利用する水道のことである。

※ 問題番号 [No. 18] から [No. 27] までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
ただし、7 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 18] 土工事の埋戻し及び締固めに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 粘性土による埋戻しを行うため、余盛りの量を砂質土を用いる場合より多くした。
2. 埋戻し土に用いる砂質土は、粒度試験を行い均等係数が小さいものを使用した。
3. 入隅等狭い箇所での締固めは、振動コンパクターを使用した。
4. 透水性のよい山砂による埋戻しを行うため、水締めで締め固めた。

[No. 19] 鉄筋のかぶり厚さ及びスペーサーに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 直接土に接する布基礎の立上り部の最小かぶり厚さは、30 mm とした。
2. 腹筋を外付けする大梁の最小かぶり厚さは、幅止め筋の外側表面から確保した。
3. 柱のスペーサーは、上段を梁下より 500 mm 程度の位置から割り付けた。
4. スラブに用いるスペーサーは、鋼製とした。

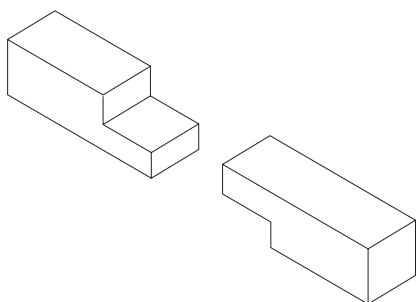
[No. 20] 型枠支保工に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. パイプサポートの脚部は、敷板に釘で固定した。
2. 階段等の斜め型枠に対してパイプサポートを鉛直にして建て込むため、パイプサポートの先端にピポット型ベース金具を取り付けた。
3. スラブ型枠の支保工に軽量型支保梁を用い、支保梁中央部の下弦材をパイプサポートで支持した。
4. 支柱に使用したパイプサポートの継手は、差込み継手とした。

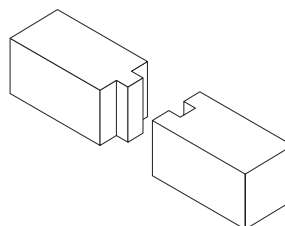
※ 問題番号 [No. 18] から [No. 27] までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
 ただし、7 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
 問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 21] 在来軸組構法の木工事における継手の名称と図の組合せとして、不適当なものはどれか。

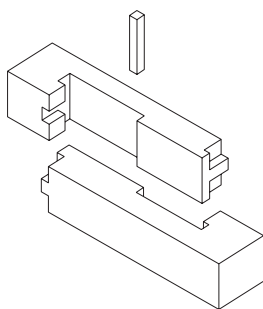
1. 相欠き継ぎ



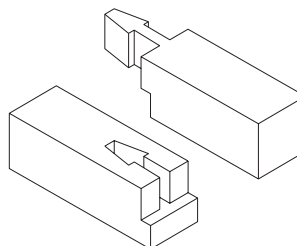
2. 目違い継ぎ



3. 金輪継ぎ



4. 腰掛け蟻継ぎ



※ 問題番号 [No. 18] から [No. 27] までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
ただし、7 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 22] 鉄筋コンクリート構造の建築物の解体工事に関する記述として、最も不適当なものは
どれか。

1. 地上作業による解体は、地上から解体用機械で行い、原則として、上階から下階へ
床、梁、壁、柱の順に解体を進める。
2. 階上作業による解体は、屋上に揚重した解体用機械で最上階から解体し、解体で発
生したコンクリート塊を利用してスロープをつくり、解体用機械を下階に移動させながら
行う。
3. 外周部の転倒工法は、最初に柱脚部の柱主筋をすべて切断し、次に壁下部の水平方向、
壁及び梁端部の垂直方向の縁切りを行った後に転倒させる。
4. 部材解体工法は、カッターやワイヤーソーを使用して躯体を部材ごと又はブロック単位に
切り離し、切り離した部材をクレーン等で地上に吊り降ろしてから分別解体を行う。

[No. 23] タイル張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 床タイル張りにおいて、張付け面積が小さいため、下地は貧調合の敷きモルタルとした。
2. 床タイルの圧着張りにおいて、張付けモルタルは、塗厚を 5 mm から 7 mm とし、1 度
に塗り付けた。
3. 外壁タイルの改良積上げ張りにおいて、小口タイルの 1 日の張付け高さは、1.5 m と
した。
4. 外壁タイルの接着剤張りにおいて、使用する接着剤は、練混ぜの必要がない一液反応硬
化形のものを使用した。

※ 問題番号 [No. 18] から [No. 27] までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
ただし、7 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 24] 金属材料の表面仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アルミニウム材の表面に、陽極酸化処理の後、金属塩を含む電解溶液中で二次的な電解処理により着色した仕上げを電解着色皮膜という。
2. アルミニウム材の表面に、陽極酸化処理の後、塗装を施した仕上げを陽極酸化塗装複合皮膜という。
3. ステンレス材の表面に、化学処理により図柄や模様を施した仕上げをエッチングという。
4. ステンレス材の表面に、凹凸の浮出し模様を施した仕上げをヘアラインという。

[No. 25] 外部に面するサッシのガラス工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 網入板ガラスは、ガラスの下辺小口及び縦小口の下端より $\frac{1}{4}$ の高さまで防錆処置をした。
2. フロート板ガラスの切断面は、エッジ強度の低下を防ぐため、クリーンカット（クリアカット）とした。
3. グレイジングチャンネルの継目の位置は、ガラスの下辺中央部とした。
4. ガラス溝内に置くセッティングブロックは、ガラス 1 枚につき 2 か所設置した。

[No. 26] 塗装工事における素地ごしらえに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 亜鉛めっき鋼面の付着物の除去には、ワイヤーブラシを用いた。
2. けい酸カルシウム板面の吸込止めは、穴埋めやパテかきの後に塗布した。
3. 鉄鋼面の黒皮の除去は、ショットブラスト処理により行った。
4. 木部面の穴埋めは、節止めを行ってからパテを充填した。

※ 問題番号 [No. 18] から [No. 27] までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
ただし、7 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 27] 壁のせっこうボード張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 鋼製下地に張り付ける場合のドリリングタッピンねじの頭は、ボード面と同面となるように締め込んだ。
2. 重ね張りの上張りボードは、接着剤とステープルを併用して張り付けた。
3. 目透し工法で仕上げる場合、スクエアエッジのボードを使用した。
4. 出隅部には、衝突による損傷防止のため、コーナー保護金物を使用した。

※ 問題番号 [No. 28] から [No. 37] までの 10 問題は、全問題を解答してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 28] 事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 着工に当たって、埋蔵文化財の有無について調査を行うこととした。
2. 着工に当たって、敷地の高低差や既存樹木が設計図書と整合しているか確認をすることとした。
3. 土の掘削計画に当たって、振動が発生するため、近隣の商店や工場の業種の調査を行うこととした。
4. 防護柵の設置に当たって、敷地の高低差や地中埋設配管の位置の確認をすることとした。

[No. 29] 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 既存の塀が所定の高さを有し、危害を十分防止し得る構造であったため、仮囲いとして使用することとした。
2. 工所用ゲートを複数設置するため、守衛所をメインのゲート脇に設置し、その他は警備員だけを配置することとした。
3. 塗料や溶剤等の保管場所は、管理をしやすいするため、資材倉庫の一面を不燃材料で間仕切り、設置することとした。
4. 施工者用事務所と監理者用事務所は、機能が異なるため、部屋を分けて設けることとした。

[No. 30] 建築工事に係る届出に関する記述として、不適当なものはどれか。

1. 掘削深さが 10 m 以上である地山の掘削を行うため、建設工事計画届を労働基準監督署長に届け出た。
2. 延べ面積が 10 m² を超える建築物を除却するため、建築物除却届を労働基準監督署長に届け出た。
3. 仮設のゴンドラを設置するため、ゴンドラ設置届を労働基準監督署長に届け出た。
4. 耐火建築物に吹き付けられた石綿等の除去作業を行うため、建設工事計画届を労働基準監督署長に届け出た。

※ 問題番号 [No. 28] から [No. 37] までの 10 問題は、全問題を解答してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 31] 工程計画の検討に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 工区割りを行い、後続作業を並行して始めることにより、工期短縮が可能か検討する。
2. 作業ごとに 1 日当たりの作業量が、それぞれ均等になるように調整する。
3. 工程計画上のマイルストーン（管理日）は、工程上の重要な区切りを避けて計画する。
4. 工事を行う地域における労務、資材、機材等の調達状況を調査して、手配を計画する。

[No. 32] バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 出来高の累計を重ねて表現したものは、工事出来高の進捗状況が把握しやすい。
2. 建築現場で長年にわたって使用されており、工事全体の工程がわかりやすい。
3. 各作業の相互関係がわかりやすく、クリティカルパスが把握しやすい。
4. 各作業ごとの日程及び工事全体の工程計画が作成しやすい。

[No. 33] 次のうち、品質管理に関する用語として、最も関係の少ないものはどれか。

1. マニフェスト
2. ISO 9000 ファミリー
3. QA 表
4. 管理図

[No. 34] 工事現場における試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. フレッシュコンクリートのスランプの測定は、スランプゲージを用いて行った。
2. 外壁タイル張り後のタイル接着力の測定は、油圧式簡易引張試験器を用いて行った。
3. 構造体コンクリートのひび割れの幅の測定は、クラックスケールを用いて行った。
4. 吹付けロックウールによる耐火被覆材の厚さの測定は、ダイヤルゲージを用いて行った。

※ 問題番号 [No. 28] から [No. 37] までの 10 問題は、全問題を解答してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 35] 鉄骨工事の検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 溶融亜鉛めっき面の割れの検査は、目視で行った。
2. 溶接部のブローホールの検査は、目視で行った。
3. 溶接部の表面割れの検査は、浸透探傷試験により行った。
4. スタッド溶接部の検査は、打撃曲げ試験により行った。

[No. 36] 作業主任者を選任すべき作業として、「労働安全衛生法」上、定められていないものはどれか。

1. 工作物のコンクリートの打込みの作業
2. 土止め支保工の切りばりの取り外しの作業
3. 高さが 5 m のコンクリート造の工作物の解体の作業
4. 高さが 5 m の足場の変更の作業

[No. 37] 足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 単管足場の地上第一の布は、高さ 2 m 以下の位置に設けた。
2. 単管足場の隣接する建地の継手部は、同一レベルとなるように配置した。
3. 単管足場の建地の間隔は、けた行方向 1.85 m 以下、はり間方向 1.5 m 以下とした。
4. 移動式足場（ローリングタワー）の脚輪のブレーキは、移動中を除き、常に作動させた。

※ 問題番号 [No. 38] から [No. 42] までの 5 問題は能力問題です。全問題を解答してください。
問題は五肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 38] 普通コンクリートの調合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 水セメント比は、耐久性を確保するためには、小さいほうがよい。
2. 単位水量は、打込み後のブリーディングの増加を抑えるためには、できるだけ少なくする。
3. 単位セメント量は、乾燥収縮によるひび割れを防止するためには、できるだけ少なくする。
4. スランプは、レディーミクストコンクリート工場出荷時における値を指定する。
5. 粗骨材は、ワーカビリティを向上させるためには、扁平なものよりも球形のものをしている。

[No. 39] 高力ボルト摩擦接合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ボルトの締付けは、ボルト群ごとに継手の周辺部より中央に向かう順序で行った。
2. ナットとボルトが共回りを生じたため、新しいボルトセットに取り替えた。
3. フィラープレートの材質は、母材の材質に係わらず、400 N/mm² 級鋼材とした。
4. 摩擦面の錆の発生状態は、鋼材の表面が一様に赤く見える程度とした。
5. ナット側の座金は、座金の内側面取り部がナットに接する側に取り付けた。

[No. 40] シーリング工に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 目地深さが深かったため、バックアップ材を用いて所定の目地深さになるように調整した。
2. 目地底にシーリング材を接着させないため、ボンドブレイカーを用いた。
3. シーリング材と被着面の接着性を良好にするため、プライマーを塗布した。
4. マスキングテープは、シーリング材のへら仕上げ終了後、直ちに取除いた。
5. 異種シーリング材を打ち継ぐため、先打ちシーリング材が硬化しないうちに、後打ちシーリング材を施工した。

※ 問題番号 [No. 38] から [No. 42] までの 5 問題は能力問題です。全問題を解答してください。
問題は五肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 41] カーテン工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. レースカーテンのカーテンボックスは、窓幅に対して片側各々 150 mm 長くした。
2. カーテンレールに取り付けるランナーの数は、1 m 当たり 4 個とした。
3. カーテンの両脇及びすその縁加工は、伏縫いとした。
4. レースカーテンの上端の縁加工は、カーテン心地を入れて袋縫いとした。
5. カーテン上端の折返し長さは、使用するフック（ひるかん）の長さにより定めた。

[No. 42] 現場の安全管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 足場からの墜落防止のため、枠組足場に交さ筋かい及び高さ 15 cm の幅木を設けた。
2. 工事現場からの飛来落下物による危害防止のため、足場の外側面に工事用シートを設けた。
3. 高さ 2 m 以上の箇所で作業を安全に行うため、作業場所に必要な照度の照明を設けた。
4. 単管足場の沈下防止のため、敷角の上に単管パイプを直接乗せて、脚部に根がらみを設けた。
5. 作業時の踏み抜き防止のため、スレートで葺かれた屋根の上に幅 30 cm の歩み板を設けた。

※ 問題番号 [No. 43] から [No. 50] までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
 ただし、6 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
 問題は四択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 43] 建築確認手続き等に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 施工者は、工事完了から 4 日以内に完了検査を申請しなければならない。
2. 施工者は、工事現場の見やすい場所に、国土交通省令で定める様式によって、建築確認があった旨の表示をしなければならない。
3. 鉄骨造 2 階建ての建築物の建築主は、原則として、検査済証の交付を受けた後でなければ、当該建築物を使用し、又は使用させてはならない。
4. 建築主は、建築確認申請が必要な建築物を建築する場合、当該工事に着手する前に確認済証の交付を受けなければならない。

[No. 44] 次の記述のうち、「建築基準法施行令」上、誤っているものはどれか。

1. 集会場における客用の屋内階段の幅は、120 cm 以上とする。
2. 戸建て住宅の階段の蹴上げは、23 cm 以下とする。
3. 最下階の居室の床が木造である場合、原則として、外壁の床下部分には、壁の長さ 5 m 以下ごとに所定の換気孔を設けるものとする。
4. 最下階の居室の床が木造である場合における床の上面の高さは、原則として、直下の地面から 45 cm 以上とする。

[No. 45] 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 建設業の許可は、5 年ごとに更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力が失われる。
2. 指定建設業と定められている建設業は、7 業種である。
3. 一般建設業の許可を受けた業者と特定建設業の許可を受けた業者では、発注者から直接請け負うことができる工事の請負代金の額が異なる。
4. 建設業の許可を受けようとする者は、営業所ごとに所定の要件を満たした専任の技術者を置かなければならない。

※ 問題番号 [No. 43] から [No. 50] までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
ただし、6 問題を超過して解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 46] 工事現場における技術者に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 下請負人として内装仕上工事を請け負った建設業者は、下請代金の額にかかわらず主任技術者を置かなければならない。
2. 国又は地方公共団体が発注する建築一式工事以外の建設工事で、請負代金の額が 3,000 万円の工事現場に置く主任技術者は、専任の者でなければならない。
3. 主任技術者は、工事現場における建設工事を適正に実施するため、当該建設工事の施工に従事する者の技術上の指導監督の職務を誠実に行わなければならない。
4. 建築一式工事に関し 10 年以上実務の経験を有する者は、建築一式工事における主任技術者になることができる。

[No. 47] 次の記述のうち、「労働基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 使用者は、原則として、満 18 才に満たない者が解雇の日から 14 日以内に帰郷する場合においては、必要な旅費を負担しなければならない。
2. 使用者は、建築物の解体に係る事業において、児童が満 15 歳に達した日以後の最初の 3 月 31 日が終了するまで、これを使用してはならない。
3. 未成年者は、独立して賃金を請求することができる。
4. 親権者又は後見人は、未成年者に代って労働契約を締結することができる。

[No. 48] 「労働安全衛生規則」上、事業者が、所轄労働基準監督署長へ報告書を提出する必要があるものはどれか。

1. 安全管理者を選任したとき
2. 作業主任者を選任したとき
3. つり上げ荷重が 0.5t 以上の移動式クレーンが転倒したとき
4. 労働者の労働災害による休業の日数が 4 日以上するとき

※ 問題番号 [No. 43] から [No. 50] までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
ただし、6 問題を超えて解答した場合、減点となりますから注意してください。
問題は四択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 49] 建設工事に使用する資材のうち、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」上、特定建設資材に該当するものはどれか。

1. セメント瓦
2. タイル
3. パーティクルボード
4. ビニル床シート

[No. 50] 次の記述のうち、「道路法」上、道路の占用の許可を受ける必要のないものはどれか。

1. 道路の上部に、構台を組み、その構台上に現場事務所を設置する。
2. 道路の上部に、防護柵を設置する。
3. 道路に、工事用電力を引き込むための仮設電柱を設置する。
4. 道路に、屋上への設備機器揚重のためのラフタークレーンを設置する。